

第25回 日本腰痛学会

The 25th Annual Meeting of the Japanese Society of Lumbar Spine Disorders

会期 2017年11月3日(金)・4日(土)

会場 東京コンファレンスセンター・品川

会長 大川 淳
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 整形外科学分野 教授

腰痛治療の
カクシン
(革新・核心・確信)

プログラム・抄録集

会 長 挨 拶



第25回日本腰痛学会の開催にあたって

会長 大川 淳

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科整形外科学 教授)

医療における新しい知見は、最初は革新的なものであり、それが追試によって確信に至り、最終的には診断治療体系の核心を形成するようになります。第25回日本腰痛学会のテーマを、「腰痛治療のカクシン」とさせていただいたのは、この革新、確信、核心をすべて網羅したいという欲張りな考えによるものです。平成29年11月3日（金曜日）と4日（土曜日）に、東京コンファレンスセンター品川で開催します。祝日と土曜日を選び、品川に固執したのは、診療所で腰痛診療に携わっている先生方や、理学療法士をはじめとするメディカルスタッフにもたくさんご参加いただけることを期待したからです。

学会の目玉は、第1日の日本腰痛学会理事長である紺野慎一福島県立医大教授による特別講演です。2019年に国際腰椎学会（ISSLS）を京都で主催されるにあたって、腰椎疾患研究に対する我が国の多大な貢献についてご講演をいただきます。

それ以外にも充実したプログラムを用意しています。シンポジウム1は腰痛治療の確信「エビデンスが構築された治療法」、シンポジウム2は腰痛治療の革新「慢性腰痛・神経障害性疼痛に対する治療の breakthrough」、シンポジウム3は腰痛治療の核心「腰痛に対する集学的治療」として、それぞれの分野におけるトップランナーに熱い議論をしていただきます。また、7つの教育研修講演、ランチョン・モーニングセミナー9つを通じて、腰痛に関する基礎科学から疫学、アスリートの腰痛、骨粗鬆症との関連など幅広く学んでいただけたと思います。手術に関してはハンズオンセミナーを3つ設け、LIF、骨切り、MISの実際を扱います。さらに、第1日のミニシンポジウムでは診療所における腰痛治療の今後の方向性について問題提起していただき、第2日には、痛みに関連した学会の集まりであるペインコンソシアムによる合同シンポジウム、パネルディスカッションでは模擬カンファレンス形式で、難治性腰痛のモデルケースに対する多職種による診療アプローチについて検討します。

みなさまからは260題を超える一般演題のご応募がありました。医師以外の論文であっても、科学的な分析が詳細に行われているのに感銘を受けました。大部分は口演となりますが、一部は会場の都合で時間を短縮したミニオーラル形式での発表とさせていただきます。腰痛の保存治療はここ10年で大きく変化しました。従来の牽引温熱治療から運動療法に中心がシフトし、理学療法士をはじめとして多職種による治療体系が確立されつつあります。治療効果の測定も、より多角的に行われるようになりました。本学会を将来の腰痛治療の在り方を考える機会にしていいただければ幸いです。